

福島相双復興推進機構（福島相双復興官民合同チーム）からのお知らせ

震災から12年が経過しましたが、福島相双地域の営農再開は道半ばであります。官民合同チームでは、これからも農業者様の声を伺い、農業者様に寄り添って、営農再開の拡大に向けた様々なご支援を続けてまいります。（支援内容は裏面をご覧ください）営農再開され、福島相双地域で頑張られている農業者様や地域の話題を紹介いたします。



【川俣町での取組】

川俣町山木屋の山ぶどうジュースがいよいよ販売です！

廣野新市様は、子供の頃に近くの山でとって食べた山ぶどうの美味しさをジュースにして、たくさんの方に知ってもらい、山木屋を盛り上げる特産品にしたいとの思いから、県内のワイナリーで栽培技術を学び、令和元年から栽培を始められました。

ご家族とも協力して大切に育てられた山ぶどうは、ほどよい酸味と甘みが絶妙で味わい深いジュースに仕上がりました。相双機構は、ジュースの製品化へのお手伝いをさせていただきました。



廣野様ご夫妻



ジュースのラベル



山ぶどうジュース



【大熊町での取組】

大熊町に移住・就農された方がジャガイモを初出荷！

フランス出身のブケ・エミリー様は、平成23年に来日され、首都圏等で仏語講師をされる中で福島とつながりができ、大熊町への訪問をきっかけに「大熊町で農業を始めて原発事故のマイナスイメージを払拭したい」と決意され、令和5年2月に同町に移住しました。町とも農業の取組を相談する中で、大川原地区の農地を紹介され、木苺や露地野菜を、自然栽培にこだわって栽培を始められました。この7月にはジャガイモを初収穫され、ニューヤマザキデイリーストア大熊町大川原店の産直コーナーへ初出荷されました。相双機構は同店をご紹介し、販路拡大のお手伝いをさせていただきました。



天の川農園の看板や小屋



ブケ・エミリー様



販売されたジャガイモ



【田村市での取組】

田村市都路町から旬のトマトが出荷されました！

吉田篤也様は、退職を契機に、地元の農業を将来につなげていきたいと、平成31年3月から、ご夫婦でミニトマトのハウス栽培を始められ、現在ではハウス10棟まで規模を拡大されています。吉田様が栽培されるミニトマト（サンチェリーピュアプラス）は、酸味と甘みのバランスが良く、日持ちも良い品種とされています。食べ頃を迎えたミニトマトは、都路町商業施設 Domo の他、都路町から近い葛尾村で集荷されて県北地区の地元スーパーへも出荷されています。相双機構は、この地元スーパーへの販路拡大のお手伝いをさせていただきました。



吉田様ご夫妻



出荷されるミニトマト



被災12市町村の営農再開をご支援します 営農再開や新規参入をご検討の皆様、ご相談ください

福島相双復興推進機構 営農再開グループでは、国・福島県・市町村・JAなどの関係機関と連携し、農業者様を個別に訪問して、営農再開に向けた次のような支援活動を行っております。是非、ご活用を検討ください。皆様からのご連絡をお待ちしています。ご相談やご支援は無料です。費用はかかりません。

新たな販路開拓のご相談

「販売先の開拓や確保がしたい」
「首都圏などに出荷したい」
このようなご相談には、専門家を派遣して販路開拓のご支援をします。

農業の技術的なご相談

「うまく栽培したい」
「どの作物の栽培がいいか」
「スマート農業に関心がある」
このようなご相談には、普及指導員などによる技術的なご支援をします。

補助金や制度活用のご相談

「農業機械を導入したい」
「補助金の申請方法を知りたい」
「農地の貸手や借手を探したい」
「農業法人を設立したい」
このようなご相談には、訪問員がアドバイスをいたします。

対象となる
農業者様

原子力被災12市町村※で、農業を行われている方、または、今後、新たに農業を行う方
※ 田村市、南相馬市、川俣町、広野町、楡葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、飯舘村



福島相双復興推進機構（福島相双復興官民合同チーム） 営農再開グループ

ご相談受付ダイヤル：024-502-1117
(受付時間9:00～17:00 土日祝日、年末年始を除く)

Webサイト <http://www.fsrt.jp>



福島相双復興官民合同チーム

営農再開グループの
ページはこちら→



< 公式SNSページはこちら >

YouTube



公式 Facebook



公式 Twitter

